

第 1 回開催 知事と語る市町村ミーティングinかみのやま

○開催日時 平成24年5月23日(水) 13:30～15:30

○開催場所 上山市体育文化センター

○参加者 約270名

<質疑項目>

- 1 十日町地区まちづくりの推進について
- 2 東北中央自動車道の整備と地域振興について
- 3 県を挙げた企業誘致の取組みについて
- 4 学校給食での優良地場産食材の利用促進について
- 5 山形県産農産物の安全性確保について
- 6 ラ・フランスの全国アピールについて
- 7 かみのやま温泉クアオルト・EVエコタウンプロジェクトへの支援について
- 8 東日本大震災と原発事故を風化させないための県民アクションについて
- 9 農産物のPRについて
- 10 上山小学校の改築に係る建築資材等の放射能検査について

【1 十日町地区まちづくりの推進について】

★私のおります十日町地区は、昔でいう羽州街道になります。羽州街道ということから、歴史の名残がたくさんあり、城下町であり、宿場町であり、そして温泉町です。温泉も来年で開湯555年となるそうです。

そして現在の上山城は、昭和57年完成ですので、今年が開館30周年という年にあたりまして、まちの中でも開館30周年の催し物がたくさん行われております。

恵まれた環境にあるまちの真ん中の十日町地区におきましても、上十日町、中十日町、下十日町と3つに分かれておりますが、その3つの地区が5年前より、十日町地区景観まちづくり協議会を結成いたしまして、これまで東北芸術工科大学や東北文教大学との交流や、地元の上山明新館の高校生が作った花の苗を頂戴して、5月27日曜日にまちの中を植栽する事業を実施することになっております。

さらに6月3日は、大商業祭として十日町通りを通行止めにして、ミニSL電車を走らせたり、100円商店街や復興支援のための募金活動などを行う予定です。

協議会の活動には、上山市役所の若手の職員の方も参加して共にやっております。さらに、県からもここ5年の間、何人かの方々が協議会の会議に参加してくださり、細やかなアドバイスを頂戴していることに、この場をお借りして感謝申し上げるところでございます。

協議会としてまちの歴史や現状も踏まえて、将来へと向かっていかなければならないというのが1番の課題です。世代交代ではなく、70代前後の親の世代、30代40代の若いママパパの世代、小さな子どもたち、3世代、4世代共にがんばってまちを作ったり、一緒に生活を

していきたいと思っております。

会議をしている中で私たちが気づいたことの中に、道路、景観もですが、なんと電柱の多いこと。街灯もあれば、表示板などあらゆるものがたくさん立っています。その割には狭い道路です。ここは県道でございました。高齢者の多い十日町の中で、安全に子どもたちや高齢者も行き交いができ、そして昨年の震災があってから心配してたんですが、観光バスも戻ってまいりました。とてもありがたいことです。しかしこの細い道路で観光バスがギリギリと行き交います。海外からもお客さんが増えてまいりましたので定期観光バスなどが、スムーズに通れるような、自分たちのまちづくりを手がけていきたいと思っております。

電柱の地中化というのは大変なお金がかかると聞いております。しかし、後ろの土地や他の前後の道路に移転するというのも可能だとお聞きしております。ぜひ、電柱の移転ということにご支援をいただいて、十日町中心商店街、そして観光客を迎えるためのまちづくりにご協力をお願いしたいと思っております。

(知事)

はい、ありがとうございます。上山は城下町・宿場町・温泉町として地域の資源が大変豊かな地域でございます。その中で、景観まちづくり協議会というものを立ち上げられて、会長さんとして日々ご尽力されておりますことに対し、まずは敬意と感謝を申し上げたいと思います。

景観といいますと、いろいろな景観が思い浮かぶのですが、どういう景観にしたいというような何かビジョンはありますか？

(意見者)

お城の開館30周年ということで城下町・温泉町、そんな昔の古い歴史ある建物がたくさんあるものですから、それを大事にしながら、通りの商店街、個人の住宅など、昔ながらの風情を残したいと思っております。そこに見合った街灯の形もあるなと思いますし、私たちの中で、歩道というものを作ることは不可能に近いなと思っております。ならば、地域の人たちで努力して優しい町並みを作るということを、集まっては検討しているところです。

(知事)

ありがとうございます。「できるだけ古いものを残しながら」ということですね。

といいますのは、例えば山形市の七日町の御殿堰みたいに、昔の雰囲気そのままにするのか、新潟の十日町に行ったときに、ああいう雰囲気のたたずまいが何十mも続いていたんですね。そういうふうにしたいのか、あるいは金山町の町並みのように100年後のことを考えてやるのかなど、いろいろな形態があると思いましたのでお尋ねいたしました。

先ほどお話にありましたように、県もまちづくり協議会に参加していると聞いておりますので、今のようなお話も含めて、地域の皆様、上市市、県とで一緒になってまちづくりをどのようにしていくのか、引き続き一緒になって考えていきたいと思っております。

村山総合支庁で、これまでの経過やこれからのことなどありましたら、上市市民の皆さん

にご紹介いただきたいと思います。

(村山総合支庁 建設部長)

ただいまのご意見につきまして、都市再生整備計画事業ということで上山市で取り組んでおりますが、その中で、今年度十日町通りの電柱移設の調査を実施すると伺っております。この調査で住民の皆様のご意向を確認するためのアンケートを行いまして、その上でワークショップによる検討を実施し、今後の方向性を確認していく予定だとお聞きしております。電柱の移設調査の結果を踏まえまして、これまでまちづくりの検討を進めてこられた十日町地区の皆様、商工会の皆様、上山市の関係各課、それと県の都市計画課で組織されております十日町地区の景観まちづくり協議会の中で、充分にご議論をしていただくということがまず必要ではないかと思っております。

その上で、無電柱化につきましては、上山市と県が協議をさせていただきながら、県として可能なこと、市として可能なことの役割分担をさせていただきまして取り組んでまいりたいと思います。

(知事)

上山市さんも一緒になって、もちろんやっていると思いますので、市長さんからも一言お願いしたいと思います。

(上山市長)

十日町につきましては、先ほどお話がありましたように、温泉町、宿場町、城下町ということで、3つの顔をもっているというまちでございまして、まち並みをどうするかということで議論をさせていただいておりますが、基本的には、石崎商店街のような、いわゆる道幅を広めるということではなく、現状の幅のままで、あの通りには蔵もたくさんありますし、また、お城の表玄関口でもございますので、そういった形で整備をしてまいりたいということで、今、地元の方と話をさせていただいております。中心市街地活性化基本計画についても、現在、練っておりますし、なんとか今年中に認定を受けたいということでやっております。その点については県と一体となってやらせていただきたいと思いますと考えております。

(知事)

はい、ありがとうございます。まちづくり協議会の下で一緒にやってらっしゃる方と、上山市、県とで一体となって、たくさんの方々に来ていただいてにぎやかになれる。そういったまちづくりを目指していきたいと思っておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

【2 東北中央自動車道の整備と地域振興について】

★東北中央自動車道の整備と、地域振興についてお尋ねします。

東北中央自動車道の整備については、平成30年度に上山市の赤坂にもインターチェンジ

が設置されると聞いております。高速道路が上山にも本格的に整備されることは市民一人一人が大きな期待を持っております。

先日、市長からは、赤坂のインターチェンジ設置に合わせた周辺道路を、今年度から整備していくと聞いておりました。東北中央自動車道、日本海沿岸東北自動車道の整備予定、特に東北中央自動車道の山形上山インターチェンジから南陽高島インターチェンジ間の整備予定について、今後の見通しなどあればお聞かせ願いたいと思います。

また、東北中央自動車道、あるいは日本海沿岸東北自動車道が整備されれば、仙台・福島、そして日本海側や首都圏と高速交通網で結ばれるわけですので、それに合わせた山形県の活性化の戦略的なことがありましたら、お聞かせ願いたいと思います。

(知事)

どうもありがとうございます。高速道路というのは、山形県は大変整備率が低い県であります。私は知事になりましてからずっと高速道路整備ということをして、国に働きかけております。

他県から支店長、支社長さんクラスの方々为本県に異動しておいでになるんですが、「山形県はつながっていないんだけど、道路に熱心でない県なんだか？」と言われるんですね。そんなことはない、とにかく熱心にやっていくんだと私は申し上げたんですが、それが昨年の大震災の時に、道路の重要性というものが改めて認識されたんですね。太平洋側が壊滅状態になったときに、日本海側から支援に向かわなければならなかったということで、救援物資、人の移動ということにつきましても、日本海側は、道路、港湾、空港、全部ですが、社会インフラが整備されていれば、もっとスムーズに救援ということができたのではないかと、いうことを痛感いたしました。

それで、新潟、秋田、青森の知事に呼びかけまして、日本海側4県で連盟を作りまして、国に、太平洋側の復興はもちろんだけれど、日本海側との均衡あるバランスのとれた整備、発展ということをして、しっかりやっけていかなくてはいけないということをして国に申し上げたんですね。

そのあと新潟県知事、秋田県知事と連携して、県境の道路につきましても提案を重ねた結果、日本海沿岸東北自動車道が、一歩進んだということがございます。そして東北中央自動車道の泉田道路も、今年度から事業着手ということになりました。

それは縦軸でございます。それから横軸、地域高規格道路というのですが、そこもしっかりと整備していかなくてはいけないと思っております。これは山形県で完結する道路ではありませんので、隣の県と広域連携しながらやっていくことが大事です。先般、宮城県知事が昨年度以来の、山形県の被災地支援に対するお礼にいらっしゃいました。

その折に、横軸道路や山形空港などのインフラ整備というものを連携してやりましょうということをして申し上げまして、「それは大事なことだね。一緒にがんばります」という共通認識を持ったところでありまして、宮城県知事も「しっかりと取り組む」ということで、横軸道路の整備がこれから着実に進むものと思っております。連携して取り組んで参ります。

今のお話であります、先般、国から福島・米沢間の平成29年度の開通ということが公表

されました。平成29年とわざわざ区切って下さったわけですので、私は覚悟をもった発表だったと思っております。

南陽高島・山形上山間につきましては、NEXCO東日本で、平成30年度の供用を目指して事業が進められております。順調に進みますと、平成30年度には、福島から米沢、さらに山形、新庄と供用となりつながることになります。

高速道路が整備されますと、災害の時はもちろん平時においても隣県や東北一体となった観光の広域連携というものができますし、物流も大変便利になりますので、企業に来ていただくことも有利になると思っております。

縦軸、横軸の道路、高速道路、地域高規格道路、その整備をしっかりと取り組んで、活力ある山形県を目指して参ります、というお答えにさせていただければと思っております。

【3 県を挙げた企業誘致の取組みについて】

★企業誘致の取組みについてですが、上山市におきましては、旧競馬場跡地で東和薬品の新工場が操業を開始いたしました。雇用や市内経済の活性化につながることから、今後大いに期待をしているところです。

一方、宮城県におきましては、セントラル自動車など、いわゆる1次、2次のサプライヤーである大手企業が立地しています。既存の地場の企業にとりましても、新たな取引先の開拓にもつながり、大きな波及効果が期待できるものと確信いたします。

こうした大きな企業の誘致におきましては、市はもちろんですが、県を挙げた取組みが不可欠だと思いますが、山形県の取組みについてお聞かせください。

（知事）

はい。どうもありがとうございます。

企業誘致による地域経済の振興、雇用の確保という点も大変重要な施策だという認識をしております。

具体的な取組みとしまして、市町村と県が連携しながら、企業動向の情報収集、個別訪問なども行っておりまして、ホームページによる情報提供、企業向けセミナーの開催なども行っております。

東京・名古屋で毎年、インダストリアルセミナーということも行っておりまして、県内のすべての市町村が参加しているわけではないのですが、そこで企業とマッチングをして、誘致することができたという話も聞いております。

それから各業界紙への広告掲載など、様々な手段で山形県の高い技術力、優れた人材についてPRをしているところです。

企業立地の促進に向けてということですが、山形県は雪国ですので、日本海側は雪があって大変だというイメージもあって、企業が太平洋側に立地するということも聞いておりますので、昨年度、補助制度の中で雪対策への支援ということも打ち出しております。

また、工場設備の賃借やリースに対する支援というものも創設いたしました。

ところが、国内の投資環境は、円高が長期化しておりますし、逆に海外の方に工場を移転

する動きが加速している状況です。そういったところをどうしていくかということが大変な課題だと考えております。ただ、昨年の大震災で山形県というのは、東北の中にあっても、被害が少なかったということで、「安全安心な県です」ということを打ち出していけるわけですし、また有機エレクトロニクスや鶴岡の慶應義塾大学先端生命科学研究所のバイオ技術など、世界的な技術が本県にもありますので、そういったところと提携して、いろいろな事業展開を図れるというような、山形県としての強みを積極的にアピールしながら、今後もセミナーを開催していきたいと考えております。

いわゆる大手の自動車会社の企業立地というのは、福島・宮城・岩手と太平洋側で、どうして日本海側に来てくれないのかと思って、直接、会社の幹部の方にお聞きしたことがあるんですね。そうしましたら、山形も探したけれど広い土地がなかったんだよと言われたんですね。精査してみたら、やはり広大な土地というのは、本県では空いているところはないんですね。広大な面積を必要とするような企業立地というのは、本県の場合は実質的に難しいところがあると思っています。

ただ、本県の場合、景気が悪くなったからといって、すぐ撤退するところでは、いわゆる世界中どこでもやれるような、人件費の高い、安いですぐ撤退してしまうような、そういう内容のところに来ていただくと、その時は雇用確保ができるかもしれませんが、数年で撤退の時にまた失業するということもありますので、やはりマザー工場という言葉が使われていますが、技術力のあるところに来ていただくということが、とても大事だと思っております。本県のものづくりの技術力が高いので、それとマッチしたような企業に来ていただくことを、きちんと考えながらやっていかなければならないと思っております。

参考まで企業誘致ですが、一昨年は、たしか山形県が東北で2番目ぐらいに数がありました。平成23年度は3番目だったと聞いております。

企業誘致を考えた場合、いろいろな考え方があるかとは思いますが、県内に立地して下さっている企業さんに、もっともっと拡充していただき、拡充に対する支援というものをやりながら、雇用の拡大も図っていく。例えば市内の東和薬品さんを先ほど見せていただきましたが、この土地で、発展して成長し拡大していただいて、もっと雇用を生み出していただくような、そういった確実な取組みということも大事なことだと思いますので、そういう取組みもしっかりやっていきたいと思っております。

それから、横軸道路ですが、セントラル自動車さんとそこから最短で来られる尾花沢とお隣の加美町との県境の道路が、冬期間閉鎖されます。昨年の大震災の時にそこが最短距離のため自衛隊をはじめたくさんさんの運搬車両が来たのだけれども、閉鎖されていたため戻っていったとお聞きしました。

その道路が通年通行できるようになると、全然違った展開があるなと思いました。5ヵ月間閉鎖されることになりますので、それを通年通行に向けてきちんと整備していくことが大事だと思ひまして、先般、宮城県知事が来る2、3日前に現場を見に行きました。加美町の町長と私と尾花沢市長の3人で、ここをしっかりと整備しようと一致団結することにしまして、さらにその2、3日後に宮城県知事がいらっしゃったので、そのことを申し上げて、宮城県知事も一緒に、「整備に取組みます、5年以内に、1日も早い整備を」ということでお約束

をしていただきました。そこが通年通行になりますと、セントラル自動車というのは行き来が非常に便利になりますので、県内には、優秀な部品会社がたくさんございます。県内にもそういった部品会社との取引というものが、ますます有利になってきますので、横軸道路の整備を行って、地元の産業を活性化することもしっかり取り組んでいきたいと思っているところです。

【4 学校給食での優良地場産食材の利用促進について】

★学校給食における優良地場産食材の利用促進についてお伺いしたいと思います。

最近は、「食育」への関心の高まりとともに、安全性の観点から、米飯給食の実施や、地場産食材が多く使われるようになってきております。上山市でも、上山産のトップブランド米を使った週5日間の完全米飯給食や、上山産農産物の利用拡大を進めており、農林水産省主催の2011年度 第4回地産地消給食等メニューコンテストで、上山市の学校給食センターが、学校給食部門で東北農政局長賞を受賞するという、大変うれしいニュースがありました。

上山の子どもたちは登下校や遊びの中でも常日頃大きくなる畑の作物や、成長していく稲の成長、季節ごとに実っていく果実等を目で感じ、肌で感じ、学校給食でその食物が出ることによって、舌でふるさと感じているのではないのかなと母親の視点から思うことがあります。またそうした体験は、子どもたちの情緒の発達にもとてもよく、ふるさと山形への愛着が高まるとともに、成長しても忘れられない土地になるのではと感じております。

大きくなって山形県外に生活することになっても、「あの米はおいしかった」「あの果物はおいしかったな」と、山形県の食材の有力なセールスマンになるのではないかと考えております。

そのためにも学校給食の優良地場産食材の採用を拡大していただき、つや姫や山形県が誇る果物を学校給食に積極的に取り組んでいただきたいと思います。

ただし、学校給食は、単面的な制約が関わってくると思います。米飯給食や県産農産物の利用促進も県の補助があって、どうにか実現しているということをお聞きしておりますので、県の施策として補助制度を一層充実させていただきたいと思っております。

(知事)

はい、どうもありがとうございます。

上山のトップブランド米って何だろうと思ひまして、調べてもらいましたら、JAやまがた西郷地区の前川トップブランド米生産組合が生産している、はえぬきの米で1.95mm以上の比較的粒の大きい米を選別して販売しているものが、上山市のトップブランド米だということがわかりました。

学校給食で県のおいしい農林水産物を提供することで、子どもたちの山形県に対する愛着や誇りというものが育ち、情緒的にも大変良い発達に資するのではないかと、まったくそのとおりだなと思っております。

食育の専門家の方の話をお聞きしますと、食育は8歳までが大事で、8歳までに地場産なり、とにかくおいしいものや、料理の仕方などを教えたり、親御さんや友達、知り合いと一緒

になっておいしいものを食べることで、その味覚がしっかり形成されるということを聞きまして、「なるほど」と思いました。

大人になってからでは遅いということではないかもしれませんが、大人と一緒に楽しくおいしいものを食べる、また友達とおいしいものを食べるという点では、学校給食というのは本当にうってつけなのかなと思っております。

地元の食材を使った学校給食といいますと、顔の見える生産者と、消費者の関係からより安全な食材が確保されるということになりますし、また子どもたちが、食文化、農業への理解を深めるということで、本当に様々な利点があると思っております。市町村には県の補助制度を活用していただいて、牛肉やさくらんぼなど地元の様々な食材を使ってくさっていると聞いております。先ほどお話がありました上山市の学校給食センターは、地産地消給食等メニューコンテストで、東北農政局長賞を受賞されました。これはすばらしい取り組みだなと思っております。

つや姫というお話が出ましたが、今すぐ、こういうふうにできるということではありませんが、市町村と県と連携して地産地消の取り組みが一層進むように取り組んでいきたいと思っております。学校給食に関係したことで教育事務所で補足説明がありましたらお願いします。

(村山教育事務所長)

ただいま知事から説明があったとおりでございますが、管内における小中学校における県産農産物の導入状況や、学校における食育の取り組み状況などについて、若干補足説明させていただきます。

はじめに管内の小中学校における県産農産物の導入状況ですが、県産農産物を野菜や果物、肉に分類して、県内の小中学校の導入状況から見た場合、村山管内の特長として、果樹農家や果樹栽培面積が多いことを反映して、さくらんぼやりんご、ラ・フランスなどの果物の導入が最も多くなっています。

それから上山市の導入状況について補足いたしますと、上山市は完全米飯給食を行っており、市内産米が使用されています。それから野菜や肉その他の食材についても、平成21年度から、市内生産者組合が学校給食への納入を始めており、そのための理解促進と生産拡大も図られ、納入量も非常に増えていると伺っているところです。

また、上山市内産ラ・フランスを100%使用したゼリーの給食、これは大変人気があるんですが、年間3回実施しているほか味噌や豆腐、納豆も市内産大豆を100%使用していると伺っております。非常に、県産農作物の導入が進んでいる市だと改めて感じているところです。

次に、管内小中学校における食育の主な取り組み状況について説明いたします。

各学校では、給食の時間などにおいて、食材を大切にしながらバランスよく食することや、食に関する基礎知識を学ぶ取り組みが、日常的に行われています。また、山形の野菜を積極的に消費することを目指して、昨年、村山総合支庁と村山教育事務所が共同で、山形野菜という冊子を作らせていただきました。

村山管内の小学校5年生全員に配布して、総合的な学習の中で活用してもらっているところです。この冊子は山形の特産物や伝統野菜の紹介を始め、赤根ほうれん草を例にしての流通のしくみや食品の特長などが盛り込まれており、楽しく学べるものになっています。

さらに平成16年度に学校給食法が改正になり、栄養教諭の配置が進められています。今年度は、管内で20名の栄養教諭が各学校、各市町に配置されて、学校の食育推進における中心的な役割を担っています。

その栄養教諭の会で、特に村山地区の会の方が、食育推進へのアプローチという冊子を作っています。各学校の食育の取組みを、写真でわかりやすく説明したパンフレットですが、こうしたものを各学校に配置しながら先進的な事例等を紹介して、各学校での食育がさらに進むように取組みをしているところです。

(知事)

上山市にとっては、地産地消というものが、土地の方々のいろいろな活性化につながるわけですし、もっともっと進めていかれるのだらうと思います。

先ほどからお聞きしているように、上山市の取組みは先進市だと思っております。今日お話を伺って、上山市の教育長さん、せっかくいらっしゃっているので、一言どうぞ。

(上山市教育長)

大変お褒めいただきまして、上山市教育委員会としても大変嬉しく思っております。また今、知事、村山教育事務所長さんからあったとおり、実は完全米飯というところでは、最初、子どもたちにはあまり評判がよくなかったのです。パンが好きだ、麺が食べたいとか。

ただ、昨年度、完全米飯給食にしてからある程度時間が経過し、すっかり定着しております。やはり1番大きなところは、米飯による献立、米飯を主とした食事は、子どもの健康にとって大事であるということ。また食習慣を形成していく上で、極めて大切なことであるということで、ご理解をいただくようお願いを申し上げながら定着をしてきているものと思います。今後とも上山産の食材をできるだけたくさん使用した給食を、子どもたちに届けていきたいと思っております。なお、つや姫もぜひ食べさせたいと思います。

(知事)

はい、ありがとうございます。突然のお願いにも関わらず、お答えをさせていただきまして、ありがとうございます。市長さんを抜かしてはいけないと思いながら。市長さんどうでしょうか？

(上山市長)

前川のトップブランド米でございますが、上山市は給食用として1等米の米を食べてもらうということで、その差額を市で補填しております。

先ほどからお褒めいただいておりますが、他の市町村も地産地消が進んできまして、お聞きしたいのですが、県の補助が若干下がる傾向にあるというようなことを承っているの

すが、ぜひこれを維持していただきたいと思いますが、そのあたりはどうなのでしょう？
単位が下がらなくても、全体的に需要が多くなってきているので、補助率が下がってくる
というような財政状況の話もあったのですがどうですか？

(知事)

私が聞いていますのは、一時期、米飯給食日本一を目指したことがあるらしいのですが、
平成20年度から、各都道府県でどのくらい実施しているということを、国で発表しなくなっ
たと聞いています。

ですから、日本一に山形県がなれたかどうかはわからないのですが、そのうちに先ほどお
話が出たご飯だけでなくパンや麺も食べたいというようなお話もあり、米粉で作ったパン、
米粉で作った麺など米粉製品も米の生産や販売に非常に資するものですから、そういった
政策に移行するのも大事だということを言っております。

県では、23年度から市町村が学校給食において県産農林水産物の利用を拡大する場合に、
補助を行っておりますが、この新制度を創設した際に、22年度の米飯給食日本一を目指した
補助金と比べて大幅に補助金額が減ってしまう市町村に対し、経過措置を適用しています。
この経過措置の割合については、この2ヵ年で1割下がっております。

そのため、市町村によっては、県産農産物の利用拡大を図る上で、経費の負担が増してい
るという問題もありまして、県と市町村とで一緒にお話し合いをしながら取り組んでいき
たいと思っております。

(質問者)

ありがとうございます。ご存知かとは思いますが、給食1食あたりの単価は、小学校が250
円、中学校が290円とびっくりするくらいで、「この金額でこれくらい食べられるの」、という
給食の量ですが、これがどんどん地産地消を進めていく上で家庭の負担も大きくなると、つ
らいなと思う部分と、輸入のものに頼ってほしくないとか、気になっている方は放射能の問
題などもあるので、地元でとれたものを地元の子どもたちが食べていくという姿勢でやっ
ていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

(知事)

はい。わかりました。そういう方向でがんばって取り組みたいと思っております。ありがとうござ
います。

【5 山形県産農産物の安全性確保について】

【6 ラ・フランスの全国アピールについて】

★私から2つほどお願いしたいことがあります。山形県の生産農産物の販売促進のため、知
事がトップセールスを展開していることに対して大変ありがたく思っております。

とりわけ「つや姫」については、ブランド米としての地位の確保をしつつあり、とても嬉し
く思っております。一方で、東電の原発事故による風評被害など放射能による農産物の安全

性については、これから相当長い期間つきあっていかなければならない問題だと思っております。また消費者の最大の関心事であるということも本当のことだと思います。

県ではこれまでも、県産の農産物の放射能の測定を連日行い、肉牛の全頭検査をするなど積極的に対応しておりますが、今年度4月から食品の放射性物質の基準が改正されたこともあって、県農産物の検査体制をより一層強化してもらいたいと思っております。

また全国に山形の農産物は安全だと、そして安全な農産物といえば山形だといわれるまで、宣伝していただきたいと思っております。

続いてラ・フランスについてですが、本県を代表する果物といえばさくらんぼが全国的に評価されております。一方、ラ・フランスについては、生産量は全国一であるのにも関わらず、首都圏以西の地域においてはラ・フランスの知名度が低い状況となっております。これにあわせて商品も限定的なものとなっております。

上山市ではラ・フランスは平棚栽培や、コンフューザーなどのフェロモン剤を使って安全でおいしいものを作る努力をしております。そのためか市場関係者からも品質に対しては高い評価をいただいております。昨年は、市長も関西に出向きトップセールスを実施してもらいました。大変ありがとうございます。

そういう取組みもあって、多少なりとも全国にアピールすることはできておりますが、まだまだアピールが足りないところがありますので、県を挙げてラ・フランスのイメージを全国的に定着できるように努力してもらいたいと思っております。

(知事)

はい。ありがとうございます。ラ・フランス、今年はどうですか？ 順調ですか？

(質問者)

おかげさまで順調です。

(知事)

ありがとうございます。県の農畜産物の安全性ということですが、これは、県を挙げて取り組んでおりまして、これまで96品目の県産農畜産物の放射性物質検査を行っております。

その結果ですが、不検出であったり、または国が定める基準値というのを大幅に下回っており安全性を確認しております。今年の4月から国が新基準を施行しておりまして、全国で100ベクレルを超えた品目を検査対象に加えるなど検査方針を見直したところでございます。

これに対応しまして、県では県民が食する機会が多い山菜については、検査の範囲を広げております。また野菜や果実では、検査品目を拡大し、みょうがやキウイフルーツ、あけびなども検査品目に拡大しております。そうやって検査を強化して実施しているところです。

また、他県から来て県内で流通している、他県産の農畜産物につきましても検査をしておりますし、学校給食で提供される食材の検査についても実施しているところです。

このようにしっかりと検査を行って坦々と公表していくことで、安全性というものを確

保し、さらに県民の方々の信頼性というものを確立していきたいと思っています。

それから、ラ・フランスですが、さくらんぼ、ラ・フランスというのは本県の全国における生産量が日本一ということで、機会を捉えて宣伝をしております。つや姫ももちろんですが、さくらんぼは本当に定着しておりますね。ただおっしゃるようにラ・フランスは、食べたことがある人は、本当に美味しいとおっしゃるんですが、食べたことがないという人は結構おります。まだまだ普及度が足りないのかなと思っています。

というのは、1粒が大きくそれを剥いて食べなければなりませんし、今、りんごも皮を剥いて食べるだけにして自動販売機で売っており、それが売れているということ、東京の市場の方からお聞きしています。実は昨年の秋にJR山形駅でラ・フランスの皮を剥いて1口大に切って小さいカップに入れて売っていたんです。買ってすぐに食べられるものでした。また、ラ・フランスはさくらんぼと違って食べ頃が難しいんですね。何かシールを貼っておいて、そのシールの色が黄色く変色したときが食べ頃だというものもあるらしいんですが、シールの単価が高いらしいんですね。それを貼って売ると、さらに値段が高くなるということで、ちょっと難しいということ、業界の方から聞いております。

食べ頃とあわせてしっかり普及していかないといけないし、さくらんぼは洗って食べるだけですから、みかんやりんごよりも楽なわけですね。そうした点も含めてラ・フランスをどうやって流通させていくのかということは、大きな課題だと思っています。

まずは、すごくおいしいんだということをたくさんの方々に知っていただくことが、1番の販売促進だと思います。しっかりそのことを考えながら、工夫を凝らし、おいしさと安全性をPRしていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

市長さんは関西でトップセールスを行ってみて、ラ・フランスに対する反応はどうでしたでしょうか？

(上山市長)

去年、大阪阪神デパートの地下に行ってトップセールスを行いました、まだまだラ・フランスのおいしさを知っていただけていないというのが現状だと思います。

試食をやったのですが、飛ぶように売れまして、美味しいという方はすぐ1箱、2箱と買っていかれた方もおりました。大阪市場の方々がおっしゃるには、上山のラ・フランスはトップだということは間違いないということで、小売店でも上山のラ・フランスが市場に入ってこないうちは、ラ・フランスは売らないという店舗も出てきていますよというような、大変力強いご意見をいただきました。

今年で3年になりますが、市単独で香港に農家の方が自ら出向いていただきまして、セールスをやっております。これも大変好評でございますし、今年もやらせていただきますが、そういった地道な取組みを行い、口コミでおいしいんだということになれば、本物になるのかなと考えております。我々市といたしましても県と一体となって頑張っていきたいと思っています。

(知事)

ラ・フランスマラソンなんて考えたらどうですか？

(上山市長)

ラ・フランスマラソンではなく、現在、「ツール・ド・ラ・フランス」ということで、自転車競技をやっています。大変好評でございまして、教育委員会が主管でやっておりますが、今後は市あるいは関係団体と一緒にやろうかということを考えてございまして、マラソンについては東根市さんのさくらんぼに任せて我々は自転車で行きたいと思っております。

【7 かみのやま温泉クアオルト・EVエコタウンプロジェクトへの支援について】

★震災以降まだまだ風評被害もあるところでございますが、おかげさまで3月末の時点で、かみのやま温泉のお客様が前年対比100%を超えましたので、なんとか一安心というところでございますが、まだまだ関東からの誘客が伸びておりませんで、これからが心配なところでございます。

また、県当局のご尽力で、さくらんぼ集客大作戦というものを、現在、実施させていただいておりますが、観光果樹園等のご協力や県のご協力ということで、今年は被災3県の方々には、さくらんぼ園に無料で入っていただくというパッケージ企画で、インターネットでしか申込みができないという難点もあるのですが誘客活動をさせていただいております。

さくらんぼは、昨年非常に厳しい状況でございましたので、今年はなんとか頑張ってもらいたいと思います。

また、先ほど教育長も言われましたが、来年、かみのやま温泉が開湯555年になります。開湯555年といいますと、歴史的には1625年にお殿様から初めて一般庶民が温泉を使って良いと言われましてできましたのが、共同浴場の下大湯でございます。

その下大湯に入ったといわれておりますのが、沢庵和尚。その沢庵和尚も1629年の紫衣事件で上山に配流されまして、3年ほど上山におったという歴史的事実もございまして、その由緒正しい温泉を来年は開湯555年ということでPRしていきたいと思っております。

上山では今、温泉、里山、坊平地区地域資源の活用ということで、健康づくりと交流人口の拡大を目指して3年前より、上山型温泉クアオルト事業ということをやっております。

温泉地では、「環境」「健康」「観光」をキーワードにしていくと考えており、特に安心安全は当然のことと思っております。

その中でも、環境は、大事なことであると思ひまして、昨年度、EVエコタウンプロジェクトというものを立ち上げまして、秋に旅館9軒に充電器を設置し、市当局からのご尽力、県からも補助をいただきリースで車を借りましてお客様に貸してみました。

大変好評で、馬力の強さ、静かさ、燃料を入れる手間がない。全国的にも珍しく旅館9軒が充電器を入れ、上山市役所にも急速充電器を設置しまして、お客様のアンケート要望をみますと、これからの時代の流れだろうと思っております。

7市7町の広域観光圏があるわけですが、広域観光圏の中でも充電器の設置を考えてお

かないと、広域に観光が周れないということになりますので、これからの進め方について考えをお聞きしたいと思います。私どもの上山温泉のEVエコタウンプロジェクトへの御支援を賜りますようお願いをいたしまして、質問を終わらせていただきます。

(知事)

ありがとうございます。実はここに来る前に上山市役所の前に設置してある急速充電器を見せてもらいました。上山市が取り組んでおられる、上山型温泉クアオルト事業。素晴らしい事業だと思っております。「健康」「環境」「観光」どれを取っても、これからのキーワードといたしますか、伸びるところだと思っております。特に健康は、永遠にキーワードになりうると思っておりますし、どんどん進めていただきたいと思いますと思っております。

電気自動車、EV といっていますが、これはまだまだ普及するのではないかと思っておりますが、日本ではまだハイブリットの段階で、これだけガソリン代が高くなったり、地球温暖化防止という側面などで考えると、益々普及していくんだらうという予測が立つわけです。

それを見越して上山市も県も急速充電器を庁舎前に設置したわけですが、本県の政策といたしまして、今年度、県内の道の駅に急速充電器を2箇所設置し、順次それを広げていくということを考えています。といいますのは、充電するのに30分ぐらいはかかるわけですが、道の駅ですと、産地直売所と一緒にしているところが多く、そこで休憩とともにお食事をしていただいたり、地元の産物をお買いいただくことで、地域の振興にもなるわけですね。そういったことで、道の駅に急速充電器を増やして、設置していくということを考えております。

それが増えていくことで、エコドライブで県内全部を周れるようにして、これからの環境に合ったドライブの仕方といいますか、観光の仕方ということを、しっかり提案していきたいと思っているところです。

【8 東日本大震災と原発事故を風化させないための県民アクションについて】

【9 農産物のPRについて】

★まず何を差し置いても、起こるべくして起きた福島原発事故。それは紛れもなく人災だと思っております。被災した数万の人々。その人々の中には、自ら命を絶った方もおります。

また人間だけでなくすべての生き物等にも、延々と続く環境汚染。このままでは同じことがまた起きます。全原発停止による電力不足に町工場の経営者たちの不安の声などが、マスコミで連日報道されていますが、半面、原発事故の放射能で被災された方々の報道がまったくいいほどなくなってしまいました。

政府はもちろん、なぜかマスコミまでもが、国民の意識の中から、原発事故が早く風化するように意図しているように感じてなりません。卒原発を掲げている吉村知事。東日本大震災、原発事故、それらの被災者の方々の痛み、苦しみを少しでも理解し、私たちの心の中で風化させないようなアクションを起こしてはいかがでしょうか。

例えば隣県として、岩手・宮城・福島の被災した人たちと山形県民が互いに語り合う1週間というものを企画なさってはいかがでしょうか。

2つ目。大切に残したい山形の魅力ということで、これは私の持論なのですが、亡き母親が昔、お客様に食事等を出す際、本当はおいしいのに、「うまくないけどどうぞ」などと言いながら客をもてなしておりました。若かった私は心の中で「どうしてそんなことをいう。うまくないものだったら、なんで出す」と思っておりました。

最近、山形県には、素晴らしいものが数多くあるのに、PRが下手だ。もっと全国や世界に強く発信しなければいけない、と至るところで言われはじめております。しかし、私にはちょっと異論がありまして、それに走ってしまっただけでは、やがて道を踏み外すような気がしてなりません。下手こそものの上手なり。急がばまわれ。商売は細く長く、など、下手すりゃ口先三寸になりかねません。

真の山形県の魅力は、化石のようにまだ残っている、素朴で純粋な県民性だと思います。その魅力を残すためには、本質を忘れず、目先のテクニックに走らないことではないでしょうか。

大切なものほど安売りしてはいけません。良識のある人たちは、ど派手なものには目をそらすし、うるさい音には耳を塞ぎます。逆に見えないものを見ようとするし、静かな音ほど聞こうとします。大切な山形県を、そう急がずとも良識ある多くの人たちに山形県のファンになっていただくようお願いします。

(知事)

はい。どうもありがとうございます。

まず1点目ですが、東日本大震災と原発事故を風化させないためのアクションを起こしてはいかかが、というご提案でございます。

昨年の大震災、福島原発事故でたくさんの方々が被災され、避難されております。1年2ヵ月以上経った現在でも、山形県内に、13,000人ぐらいの方々が福島からおいでになっております。

もちろんこの方々だけでなく、たくさんの方々がふるさとに帰れないでいる。その方々がふるさとに帰って、平穏な生活を取り戻されるということが、原発収束と言えるのではないかと思っております。

ただし、それは本当に時間がかかるだろうと思えますし、それまで一体何ができるのだろうと思ったときに、とにかく山形県は隣人として、出来る限りのことをしていかなければならないと思ってこれまで取り組んでまいりました。

太平洋側の宮城県、岩手県の被災地支援ということはもちろんですが、避難者の方の受け入れということも、出来る限りのことをしてまいりました。これは、教育委員会など様々な機関も同じです。最初から1週間でも10日でも1ヵ月でも、とにかく短期間でも長期間でも、そういうことに関わらず、子どもさんを受け入れてくれ、と申し上げたし、教育委員会もしっかりとそのことに取り組んでくれました。

山形県民のおもてなしの心と言ってしまえばそうなのですが、人に対する誠実さといえますか、思いやりのある姿勢といえますか、そういうことがわかって、どんどん増えていったのかなと考えているところです。

避難者の方々のお話を伺いましたが、「山形県民は親切だ」と言われたんですね。上山にお伺いしたときも言われました。避難者の方々に、市長さんをはじめ、市民の皆さんが本当に親切にしてくださったんだと、改めて感謝を申し上げたいと思います。

時間が経つにつれて、避難者の方々がお客さんとしてよりも、山形県民と交流をしたいというふうな声を聞いておりますので、これからはお客さん扱いというよりは本当に仲間として一緒になって活動したり、様々なことで交流していただければいいなと思っているところです。

お話が戻りますが、ある日突然、生活が変わってしまう。そして、先ほど申し上げたように牛肉は汚染の稲わらが全国に普及していて、牛肉の問題が全国的な問題になりました。広範囲な問題でしたね。

そして、私たちの世代だけでなく、子どもの世代、そのまた子どもの世代と、長い将来にわたって影響が及ぶわけです。そういったことを考えたときに、このままでいいのか、と思いました。そのことが強くありまして、私はとりあえずは、火力発電というような代替エネルギーというものを活用し、できるだけ早く再生可能エネルギーを増やしていくことで、しっかりと学校を卒業するような、単位をとっていくようなイメージで、それを増やしていくことで、将来、原発依存から卒業していくという想いで、滋賀県の嘉田知事と2人で卒原発を提唱させていただきました。

また、口で言っただけでしたら、将来また同じようなことが起きるだろうと想いをもちまして、これは実行するのが1番大事だと思ひまして、平成23年度の末までに、山形県のエネルギー戦略を作りました。

そして、平成24年の4月からしっかりと卒原発に向けての足取りを進めております。と言いますのも、再生可能エネルギー元年と位置づけまして、風力、太陽光、水力、そして木質バイオマス、そういった再生可能エネルギーを、しっかりと県内で開発していくということに取組み始めております。

そのことをしっかりと取り組んでいくということが、未来の世代に対して、安全安心で持続可能な社会を構築して伝えていけるという想いがありまして、このことを国にしっかりと働きかけながら、県としても半歩前に、もうやっております。まだすぐにお答えできないので申し訳ないのですが、その足取りをしっかりと進めることが私は大事だと思っております。

本県の有する自然エネルギーをしっかりと開発していくということを、皆様の前でもお約束いたしますし、これは県だけではやれないんです。市町村と一体となって産業界や様々な団体の方々と一緒になって開発していかなければ進まないことですので、ご理解とご協力をぜひお願いしたいと思っております。

今まで何もしなかったということではないんですが、3月11日には、被災県ではありませんが、東日本大震災1周年追悼、そして復興祈願式というものを避難者の方々や関係団体の皆様と一緒に、山形市と米沢市で開催したところでございます。

これからも、被災された方々、避難されている方々と心を1つにして、復興のために取り組んでいきたいと思っております。

アクションを起こしたらいいんじゃないかというご提案いただきましたので、持ち帰ら

せていただきたいと思っております。

2点目の農産物のPRですが、本質を忘れないでということでありますが、そのことが王道なんだと思っております。山形県人はPRが下手だって言われていますが、ただPRも大事だという想いもあります。

つや姫につきましても、しっかりPRしていくぞ、という想いのもとに取り組んでいるわけです。これは、山形県で全国に通用するブランド米がないという無念さもあったんですね。

宮城県だとひとめぼれがありますし、秋田県だとあきたこまちがありますし、新潟はコシヒカリがあります。首都圏のほうでは、山形県で米を作っているのを知らない方もたくさんいるんですよ。つや姫は実力もあっておいしい素晴らしい米ですので、これをPRしてやっていきたいという想いのもとに取り組んできまして、今年が全国デビュー3年目です。

現在、つや姫の母として宣伝をしておりますが、県民の皆さんお一人お一人が本当に熱心にセールスマンになって取り組んでくださっています。

山形県人というのはおいしいものに対して舌が肥えているからわかるんですね。

県民の皆さんと一緒に宣伝することで、ここまでこれたなと思っておりますが、今年は、去年の作付面積の倍以上にするんです。6500haで、生産量もですね、30,000t超えます。通年販売が可能になるんですね。

ここで要求されるのは、やはり品質です。品質を落としたら、ブランド米になれないんです。食味、品質、しっかりと維持しなければならないと思いますので、生産者の皆様には本当に頑張ってください、販売もしっかりやっていく。そして、販売だけでなく旅館や、飲食店などで、県外の方に「お、この米おいしいね。」「この米売店で売ってるんですよ。」とすぐに反応でき、対処できるようにする仕組みが必要だと思います。ですからこれは、すべての業界の皆さんと一緒にやっていかなければいけないかなと思いますので、ご理解いただき、ぜひご協力をお願いしたいと思います。

また風評被害で、本県の農産物が、結構、誤解されていますので、風評被害を払拭しなければならないという想いのもとに、今年から新たなイベントを行います。復興のための祈りと祭りということを年間のテーマとして、四季祭山形、4つのシーズン、季節のお祭りというコンセプトなんですけれど、皮切りが日本一さくらんぼまつりです。

日本一さくらんぼまつり、6月ですね。県内の各市町村でいろんなことやっていますけれど、それと連携しながら山形県のさくらんぼが日本一なんだということを改めて、全国に発信していくことが大事だと思います。

以前は山形県が9割さくらんぼを生産していましたけれど、8割になり、今は7割なんですよね。山梨が品種改良に熱心に取り組んでいるとか、長野のさくらんぼがどんどん東京で売るとか、秋田でも、うちのさくらんぼが1番品質がいいんだとか。これは絶対譲れないんですよ。青森がりんご畑をさくらんぼに変えたということはテレビでやりましたし、北海道でかなりの広さのところで、さくらんぼ栽培ということも聞いておりますし、これはもう、山形県としてはおちおちしてられない。

初代県令の、三島県令のときから、さくらんぼを取り入れて生産してるんですよ。150年近くの歴史がある。山形県は、品質、量ともに日本一、これは絶対渡すなと私は言っております。

まして、日本一さくらんぼまつり。第1回目なのでどうなるかハラハラドキドキなんですが若い方々からもいろいろなアイデアを出していただきながら、しっかりと工夫して、来年も再来年も定着していくようにしていきたいなと思います。さくらんぼから山形県は盛り上がるんだということで、山形県一体となって取り組んでいきたい、そうやって元気を発信して、それを先ほどの方がおっしゃったように、被災地の方々をお呼びしたり、そういったことをしっかりと組み込みながら、被災地の元気ということとつなげながら、東北の元気につなげて、日本の再生というところまでしっかりとつなげて、取り組んでいきたいなと思っています。

本当に山形県産の農産物。これはもう芸術品といえるものでございますので、評価向上、販路拡大にしっかりと力を入れて、これからも取り組んでいきたいと思っています。

(質問者)

先ほどの話にちょっと重複しますが、やはり良いお客さんに来ていただくためには、類は類を呼ぶということわざのとおり、自分たちの衿を正して、目先の利益に走らないで、しっかりした仕事をして価値観を持って進みたいと思っています。ありがとうございます。

(知事)

ありがとうございました。ぜひこれからもそうやってがんばっていただきたいと思いますので、県もその姿勢が一番大事なところなので、今年とはにかくV字回復といいますか、観光誘客ががんばらなければいけないという想いもあってやりますが、やはり長くやっていくには、そこが一番大事だと思っておりますので、一緒になって取り組んでいきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

【10 上山小学校の改築に係る建築資材等の放射能検査について】

★今度、上山小学校の改築工事が行われますが、福島から避難している母親を含め私たちは福島第一原発の事故の影響による、建築資材の影響を心配しています。

浪江町の採石を使用した二本松のマンションで1時間あたり最大1.24マイクロシーベルトという周辺の屋内より高い放射線値が計測されたほか、東京農大の教授が、福島県内の森林から採取した樹木の放射性セシウム濃度を測定した結果、セシウムが樹皮に留まらず内部にも高濃度で浸透していることがわかりました。

山形の下水の汚泥からも放射性物質が検出されています。県のホームページでは、下水汚泥は、埋め立て肥料化、乾燥燃料化するということでしたが、一般的にはセメントに混ぜて再利用するということでした。

また、山形市、米沢市で受け入れている震災瓦礫の岩沼市の木屑は、チップにして木材プレート、家具などに再利用されると聞きました。

子どもは大人と比較して、放射線による健康への悪影響を強く受けます。小学校の校舎は放射線の影響を受けやすい6歳から12歳の子どもたちが一日の3分の1近くの時間を過

ごす場所であり、その影響は極めて大きいということを考慮しなければなりません。

このような状況の中で、上山小学校の改築工事が計画されており、また、県内では他にもいくつかの学校の改築工事が予定されていると聞きました。

県としてセメント、木材、土砂、樹脂など建築に用いるすべての原材料等について、検査の予定やエコセメントではなく普通のセメントを使用するなど、放射能汚染の可能性のあるものを避けるような指導などの予定はありませんでしょうか。

(知事)

はい、ありがとうございます。

子どもさんに対する影響をご心配になっておられるのだと思います。確かに大人よりも子どもの方が放射能に対する影響が大きいということが言われておりますので、ご心配ごもつともだと思います。

上山小学校で改築工事があるということであり、他にも県内、高校など改築工事を予定しております。

その際使用するセメントや木材などを検査する予定があるのかというお問い合わせですが、そこまでの資料は、この場では持ち合わせておりませんが、帰って調べてみたいと思います。

上山市さんで、上山小学校改築の件で、何かありますか。

(上山市教育長)

ただいまご質問いただきありがとうございます。

何より大事な子どもたちのために造る学校であります。そのための建築材料については、可能な限りの検査等をした上で使用できるように、特に、上山小学校に関しては、市の建築材料、特に木材をできるだけたくさん使いたいと思っております。こうした点も安全なものを使っていくという姿勢のひとつと考えていただきたいと思います。安全な物を使っていきます。

(知事)

安全にして欲しいということのご要望と問い合わせが表裏一体だと思っておりますので、私も戻りましたら、こういったお声がありましたということを教育委員会に伝えますし、私自身としましても、そういう方向を目指すということを伝えたいと思っております。ありがとうございます。